

朝日屋原薬局調査報告書

平成14年11月

目次

第一章	朝日屋原薬局の周辺状況	3
1.	周辺状況	4
2.	本町周辺の町並み	7
第二章	朝日屋原薬局の建物	10
1.	建物の建設経過	11
(1)	朝日屋原薬局の創業	
(2)	現店舗の建設	
2.	建物の現状	15
(1)	主屋	
(2)	土蔵	
(3)	物置	
(4)	洋館	
(5)	はなれ	

(6)	東雲不動尊	
(7)	井戸	
仕上表		
写真		

第一章 朝日屋原薬局の周辺状況

第一章 朝日屋原薬局の周辺状況

1. 周辺状況

朝日屋原薬局は、志木駅から北に約1.3kmの距離にあり、主要地方道さいたま・東村山線に面する、本町二丁目4番43号に所在する店舗併用住宅である。

主要地方道さいたま・東村山線の本町一丁目と二丁目の境界となる部分は、道路幅員も広く、また歴史的建造物も多く、志木市の中でも特徴のある景観を有している。

都市計画道路中央道停車場線でもあるが、この部分は整備済みであり、電線も地中化され、歩道幅員も広く整備されている。

朝日屋原薬局は、駅前から続く商店街の延長上に

あり、周辺の法的条件を見ると、用途地域は道路から25mの範囲が近隣商業地域で、建ぺい率は80%、容積率が200%の地域である。また後背地は第一種中高層住居専用地域で、建ぺい率は60%、容積率が200%の地域である。



図. 1 都市計画図



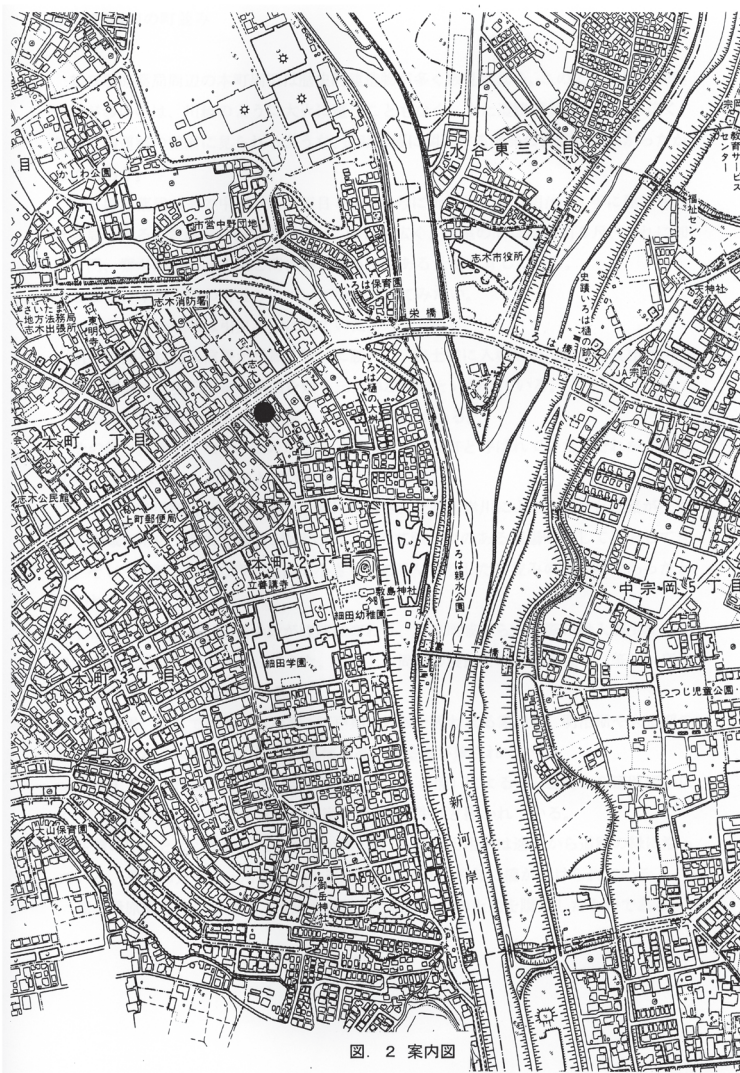


図. 2 案内図

2. 本町周辺の町並み

朝日屋原薬局周辺の本町周辺は歴史的建造物が多く散見される。このように歴史的建造物が多いのは、川越のように大火に遭うこともなく、また道路幅員が当初より広く、都市計画道路の整備に見られるような、道路拡幅に関連する開発の影響が少なかったからであろう。

朝日屋原薬局はその中の本町二丁目4番43号に所在している明治45年に建設された薬局である。短冊形の敷地であるが、間口が広く、主屋の間口は3間5尺、それに加えて門、塀が連続し、主屋と門、塀による特徴ある景観を有している。

ここで、本町周辺の町並みについて振り返ってみたい。
かつて、この地域は引又と呼ばれていた。

引又の開発は織田信長が長篠の戦いに勝利し、安土城に入場した天正4年（1576年）頃で、草分けは現三上家の家筋を辿る三上弾左衛門といわれている。

そして、中世末から人々が居住しはじめた子村である。

その後、江戸期となり、この地域は、館村及び引又町と呼ばれていた。それが、明治初期には、志木宿、志木町と呼ばれるようになった。

引又は、奥州街道という陸路と船運に利用された新河岸川により、水路と陸路が交差する地域に形成された集落で、物流の拠点として賑わいのある宿場町として発展してきた。そして川越とは異なり、街区も小さく、こじんまりした町並みの商人町であったと言われている。

しかし、明治以降、輸送手段が陸路に変わり、周辺地域からの物資の搬入が少なくなり、衰退化が進むようになってきた。しかし、周辺の農民との交易も残り、著しい衰退化ではなかったといわれている。

その結果、引又はは現在もなお、江戸期の建設と思われる家屋や、明治期や大正期の建設と思われる主屋など、歴史的価値の高い建造物が残されている。

文化11年に作成された引又町絵図（次頁写し参照）によると、当時から道路幅が広く、当時建築されていたと見られる家屋が約90件ほど描かれている。

住環の中央には野火止用水が描かれており、野火止用水は途中から道路の縁に沿っている。その部分では、用水に接する住戸にはほぼ各戸毎に橋が架けられている。

朝日屋原薬局の土地は、この絵図の名主、星野半平の土地を購入したものである。

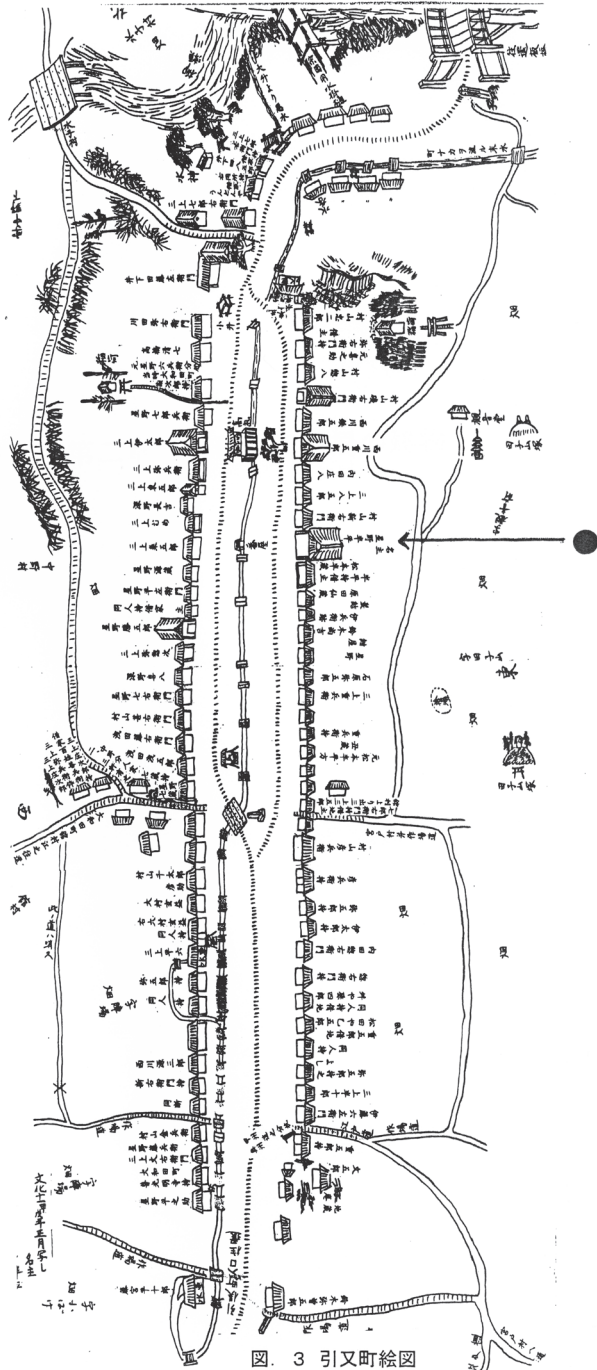


図. 3 引又町絵図

第二章 朝日屋原薬局の建物

第二章 朝日屋原薬局の建物

1. 建物の建設経過

(1) 朝日屋原薬局の創業

朝日屋原薬局の創業は、原林吉により明治20年代に創業された。林林吉の出身は朝霞市浜崎であり、100年ほど前に志木市本町に移った。

当時この地方の名医として知られていた三上医院に助手として勤めていたが、「薬屋」を開業し、医薬品のほか、絵具、染料などの化学品を幅広く取り扱った。

最初の店は、新河岸川の船運で賑わっていた市場大通りの一角で、古くからの回漕問屋、井下田回漕店の近くの、かつて小田歯科医院のあったところで、大地主の西武（現在倉庫業）と長谷川釣具店との間にあった。

この通りには、酒造家、お米屋さん、呉服屋、雑貨屋、紙問屋が軒を連ね、どの店にも番頭さん、小僧さん、女中さんが大勢働いていた。

当時、林吉は仕入れのため夜中に志木を出発し、徒歩で東京まで出かけていた。途中、新河岸川から荒川の畔で夜明けを迎え、その時目に入ってきた太陽の日の出の美しさに打たれ、将来の繁栄をも祈って店の屋号を「朝日屋」と定めた。そしてこの「朝日屋」という屋号は広く近隣にも知られることとなった。また、名前に由来する「ハラリン」という別の呼び名も親しまれることになった。また、家屋の鬼瓦にも刻まれている「角三」のマークにもあるように、取引先からしばしば「角三」さんとも呼ばれていた（現在、その意味は不明である。）。

店は絵具、染料を扱い、また大谷石などの建築材料、カーバイド、セメント、ガラスなどの新しい工業製品、エビスビールも販売した。

そして、当時流行していた間けつ熱（おこり）の特効薬としてキニーネを輸入、これを製剤した丸薬の「天龍丸」を創製した。これにより生薬屋の基礎を固めた。

（２）現店舗の建設

朝日屋が現在地に移ったのは明治45年である。ここは、江戸時代から明治中期にかけては、名主であった星野家の土地であった。向かいにあった、「浦和商业銀行」（その後八十五銀行と合併して埼玉銀行、さらに朝日銀行となる）の志木支店はこの地域では最も重要な金融機関であり瀟

酒なデザインの建物であった。

施工に当たった大工はこの地方きつての名工と言われた小日向棟梁であった。

小日向は、現在飯能市となっている黒松の山林を買収し、工事に当たった。そのため、主屋の店舗は大黒柱（樗）を除き、柱、天井など全て松材で造られている。戸棚や仏壇などにも松材で造られ、豪華さよりは、営業活動を優先し、実用的な造りとした。

主屋は木造2階建ての出桁造りの建物であり、間口は3間5尺の店舗であった。

そして、主屋以外にも、二階建ての土蔵、物置も造った。物置は当時は2階建てであったが、現在、2階の床を解体したため平屋となっている。そして東雲不動尊（祠と手水鉢）も造った。

二代目林三は、はじめは浦和中学に通い、その後東京の中学に移り、薬学校（現在の熊本大学薬学部）を卒業し薬剤師免許を取得した。百数十種類の製剤、胃腸病の薬から眼病薬、皮膚病薬などを研究、創製し、「文明社製薬部」という製薬所を設けた。また、当時の著名な大衆誌であった「キング」に広告を出して通信販売も行った。

その一方で、林三は地域振興を意識して消防組で組頭を、また、武徳会で役員を務め自宅の庭に弓道場を設けた。

しかし、徐々に店は番頭さんまかせとなり、接客用の洋館を昭和7年に建設し、宴会を催すた

めのはなれを昭和9年に建設し、酒と宴会に明け暮れるようになった。

裏手の隣地にあった「清久屋」という酒造りから菰包みの清酒を取り寄せて、いつも樽酒を備えており、これを訪問客に振舞っていた。

やがて、このような派手な暮らし、荒い金使いのため家計は遣り繰りに苦労するようになった。第二次世界大戦が始まって以来も毎日1〜2升の酒を飲んでいたため、心臓麻痺でなくなることになった。

三代目となる昭二は当時まだ18歳であり、戦後は妻ここのひたすらな努力により営業を続け、店を維持してきた。

昭二は中学時代には模型飛行機の製作を通じ航空機の設計を夢見、旧制の高校では文学ないしは美学への道を志向していたが、家業を継ぐために志を曲げ、薬学を勉強することになった。

大学卒業と同時に昭二は薬剤師国家試験に合格し、引き続き研究生活を続けながら、店の営業で母を助ける二本立ての生活が始まった。

十年の間、東京大学薬学部で有機化学の研究に携わり、引き続いて東京薬科大学で薬科学の教授を務め三十年にわたり、天然物有機化学、合成化学、分析化学の領域の研究を行った。紫綬褒章を受賞した。

そして、現在は、このような歴史的建造物の重要性、特に薬局という店舗の現地保存の重要性から、建物の保存に努めている。

薬局の店構えは、当時も製薬会社トップ企業であった、小西新兵衛商店（現武田薬品工）、長瀬商会（現花王）、大学目黒本舗（現参天製薬）などと類似している。しかし、現在はこのような店構えの薬局はほとんど見ることができない。

2. 建物の現状

（1）主屋

主屋は明治45年に建設された木造2階建ての出桁造りの建物である。道路に面した店舗部分と奥に繋がる居住部分に分かれた併用住宅である。

店舗部分は、間口が3間5尺であり、中には調剤室がある。

店舗部分には大黒柱があり、また土間部分の上部には大梁がかかっており、そこには木製のシャッターが設置されている。

店舗部分の2階は居住であり、店舗からの階段を使い2階に上がるようになっていた。

また店舗から奥が居住部分となっており、台所と和室6畳がある。和室6畳部分は本来は8畳の広さがあるが、収納棚の設置など2畳分が収納棚と板張仕上となっている。この和室には掘り炬燵がある。

台所は、かつて和室との間に中廊下があり、廊下を隔てて台所があつたが、廊下との仕切りとなっていた建具は外して使っている。

更に奥には、和室6畳と8畳が続いている。和室6畳には仏壇があり、和室8畳には床の間がある。これら和室の南側には廊下がある。現在は幅1間の廊下であるが、かつては半間の廊下であつた。

また、台所の上部に和室6畳が増築されている。そして階段部分の下に書斎があるが、かつて2階が増築されていない時は浴室であつた。

そして更に奥には、浴室と便所が増築されている。

薬局部分は、その時々に合わせて改造されているが、明治から大正期の薬局としての姿を伝えている。また、居住部分は現代の生活に合うように、特に台所部分と、隣接する居間の部分は改造されている。そして、風呂場は新しく増築された。

外観はほとんど当時のままで、明治期の建築の特徴を有している。

屋根は、一部増築部に鉄板葺きがあるが、基本的には日本瓦葺きである。看板も当時のままである。また、防火用と思われるが、道路に面した二階部分までは側面の外壁を鉄板で覆っている。

また、正面から見て主屋の右側には、シヨウウインドウがあるが、これは増築である。

主屋に隣接して、門と塀（葉医門）が設置されている。門はいわば勝手口としての通用門である。現在、駐車場の出入口として利用されているため、車の通行しやすいように改変されている。

（2）土蔵

土蔵も主屋と同じ明治45年に建設された木造土蔵づくりで2階建ての建物である。入り口前に下屋を持ち、棚をつくり外部の物置としている。1階の外壁腰周り部分はレンガにより補強されている。

間口3間、奥行き2間半の総2階建てのつくりである。

入口は木造の引き戸となっており、鉄扉の取り付けられた様子が見られない。そのため、完全に防火用に造られた土蔵ではない。

現在は物置として使用され、1階の床はフローリングに変えているが、それ以外は当時のまま

である。2階には物入れがある。

屋根は日本瓦葺き、壁は漆喰仕上げの土蔵である。

下屋の屋根は波鉄板葺きである。

(3) 物置

物置も主屋と同じ明治45年に建設された簡素な造りの建物である。建設当時は2階建てであったが、現在は2階床を解体したため平屋建てである。入口前に下屋を持った、間口5間、奥行き2間半の階高の低い建物である。

床を張り替え、内装を模様替えし、現在は日本舞踊「藤間流」の稽古場として利用されている。建物は、入口等の開口部がアルミサッシに変更され、また、現在屋根には太陽熱利用のためのソーラーパネルが設置されている。

(4) 洋館

洋館は昭和7年に建設された木造平屋建ての建物である。主屋に隣接し、門と塀の後ろに建設された。

かつては主屋と一体に増築されたとのことであるが、現在は離れ、独立している。

間口が3間で、内開きの玄関を持ち、正面から見ると左右対称のデザインである。

屋根は日本瓦葺きで、外壁はモルタル塗りである。しかし、庭に面した東側の部分には縁側（廊下）が設けられ、外観も和風のつくりとなっている。

内部は板敷きの床で、壁と天井は漆喰仕上げである。ピアノが置かれ、ここでは音楽を嗜んだ。北側に、外側に向けて便所が設置されているが、これはお祭りの際に、使わせて欲しいという要望から、外部から使えるようにしたとのことである。

(5) はなれ

はなれは、昭和9年に建設された木造2階建ての和風建築の宴会用に造られた建物である。そのため、床の間などに見られるように接客用のつくりとしている。

現在は、居住用にダイニングキッチン等が増設されているが、創建当時は1階が10畳と4畳半の和室を中心に、2階が10畳と8畳の和室の構成で、ほぼ総二階建ての建物であった。

しかし、2階部分の廊下の幅が狭く、2階が若干小さなつくりとなっている。

1階の10畳の和室の床の間には書院がつくられている。

現在は物置として使われている。

(6) 東雲不動尊

東雲不動尊はこの地域では良く知られた不動尊であった。
祠と手水鉢による構成で、主屋と同じ明治45年に造られたものである。

(7) 井戸

井戸も明治45年に造られた陶製による井戸である。

現在はコンクリート製による蓋が設置されているが、当時は板による蓋であり、屋根が架けられ、洗濯場が設置されていた。

当時からポンプが設置され、ここから水が供給されていた。
現在も使われている。

主屋

外部仕上げ表

部位	材料
屋根	日本瓦葺き、一部鉄板葺き
軒裏天井	木製
壁	漆喰、板張り、鉄板及び一部波板鉄板
基礎	大谷石、コンクリート、独立基礎

内部仕上げ表

室名	床	壁	天井	備考
一階				
薬局	板張り、土間コンクリート	漆喰、クロス	二階床板	棚
調剤室	板張り	漆喰、板張り	格天井	棚
台所・食堂	フローリング、土間コンクリート	漆喰、一部タイル	二階床板	流し台、棚、勝手口
和室6畳	畳	漆喰	板張り	掘り炬燵、収納棚
和室6畳	畳	漆喰	竿縁天井	仏壇、押入
和室8畳	畳	漆喰	竿縁天井	床の間
廊下	板張り	漆喰	野地板	
洗面	板張り	板張り	板張り	
洗濯室	板張り	板張り	板張り	
風呂	御影石	板張り	板張り	栓風呂
便所	板張り	板張り	板張り	
二階				
和室8畳	畳	漆喰	竿縁天井	床の間
和室8畳	畳	漆喰	竿縁天井	
廊下	板張り	漆喰	竿縁天井	押入
和室6畳	畳	漆喰	竿縁天井	押入
階段	木製	漆喰	竿縁天井	
階段	木製	漆喰	竿縁天井	

外部仕上げ表

内部仕上げ表

外部仕上げ表

内部仕上げ表

物置

外部仕上げ表

内部仕上げ表

室名	床	壁	天井	備考
物置	板張り、一部鏡貼り	漆喰	杉皮	一部鏡張り

写真1.主屋、門・塀外観

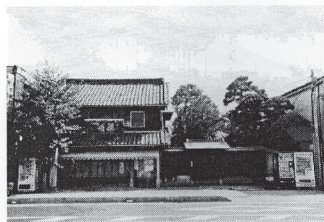


写真2.主屋外観（1）

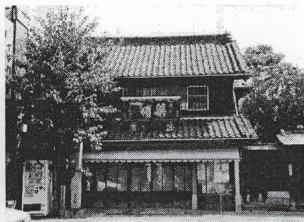


写真3.主屋外観（2）



写真4.主屋外観（3）



写真5.看板

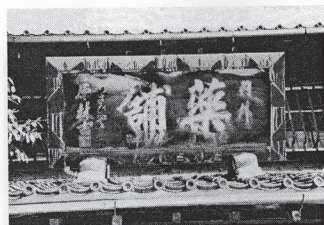


写真6.門・塀外観



はなれ

外部仕上げ表

部位	材料
屋根	日本瓦葺き、庇:鉄板葺き
軒裏天井	木製
壁	漆喰、板張り、モルタル塗り(増築部)
基礎	大谷石、独立基礎、コンクリート

内部仕上げ表

室名	床	壁	天井	備考
一階				
玄関	コンクリート	漆喰	竿縁天井	
和室3畳	畳	漆喰	竿縁天井	
和室4.5畳	畳	漆喰	竿縁天井	押入
和室10畳	畳	漆喰	竿縁天井	床の間、書院
縁側	板張り	漆喰	竿縁天井	
廊下	板張り	漆喰	竿縁天井	
台所・食堂	フローリング	クロス、一部タイル	クロス	
洗面	フローリング	クロス	クロス	
便所	板張り	板張り	板張り	
風呂	ユニットバス仕様	ユニットバス仕様	ユニットバス仕様	
二階				
和室8畳	畳	漆喰	竿縁天井	押入
和室10畳	畳	漆喰	竿縁天井	床の間
廊下	板張り	漆喰	竿縁天井	押入
階段	板張り	漆喰	竿縁天井	

写真 12.土蔵外観（1）



写真 13.土蔵外観（2）



写真 14 土蔵外観（4）

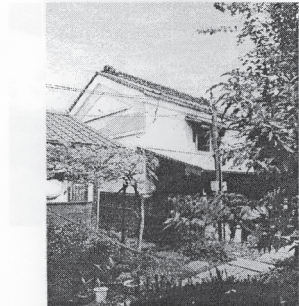


写真 15 土蔵外観（5）



写真 16.土蔵一階内部

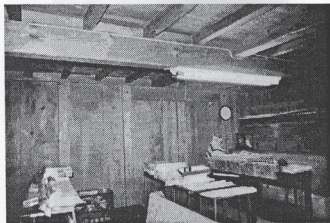


写真 17.土蔵二階内部



写真 7.主屋二階外観

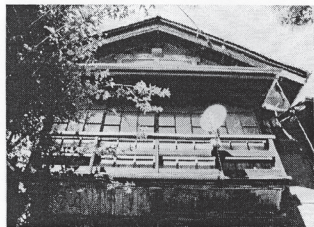


写真 8.主屋底側外観

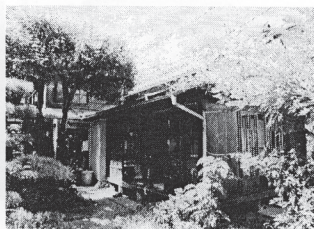


写真 9.薬局内部



写真 10.薬局内部大梁

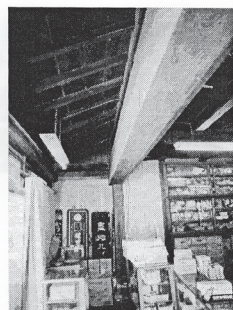


写真 11.主屋住居部分内部

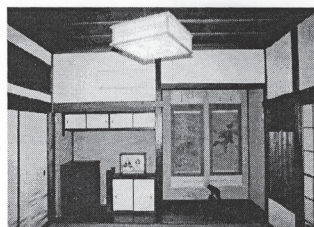


写真 23.洋館外観（1）

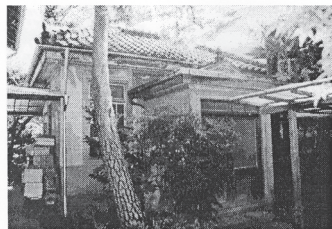


写真 24.洋館外観（2）

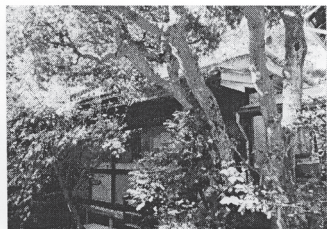


写真 25.洋館内部（1）



写真 26.洋館内部（2）

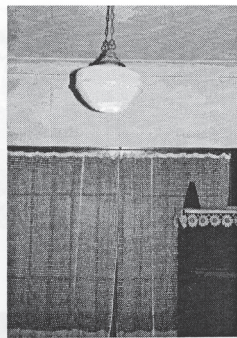


写真 18.物置外観（1）



写真 19.物置外観（2）



写真 20.物置内部（1）

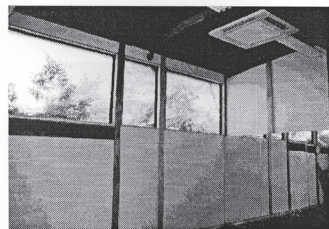


写真 21.物置内部（2）



写真 22.物置天井

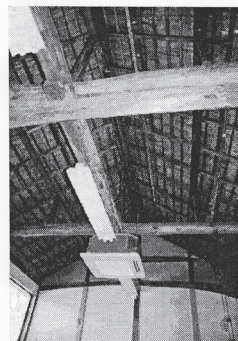


写真 33.東雲不動尊外観



写真 34.東雲不動尊祠外観

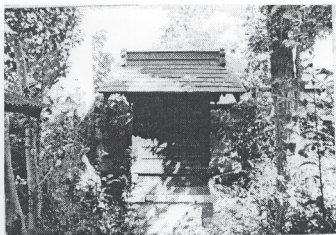


写真 35.東雲不動尊手水鉢

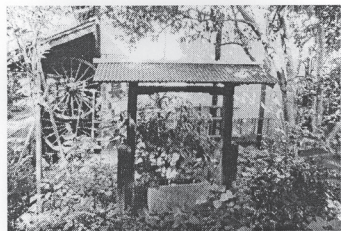


写真 36.井戸

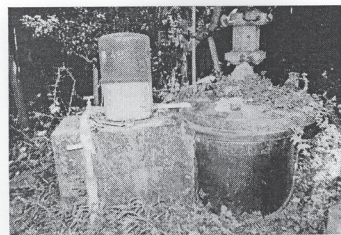


写真 27.はなれ外観（1）



写真 28.はなれ外観（2）



写真 29.はなれ外観（3）

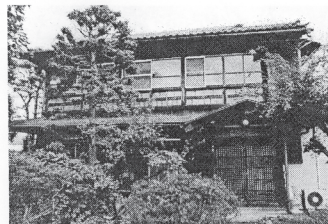


写真 30.はなれ外観（4）



写真 31.はなれ内部（1）

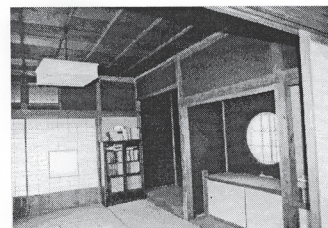


写真 32.はなれ内部（2）

